

みやけの風

第 238 号

平成 17 年 (2005 年) 9 月 3 日 (土) 発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmpo.org

9月に入り朝夕の涼しさが秋を感じさせるようになってきました。新学期も始まり、2学期から三宅島にもどってきた子どもたちも登校を始めたでしょうか？支援センターでは帰島のお手伝いは一段落とさせていただき、新たに『みやけじま<風の家>』開設の準備に取りかかっています。島の高齢の方々がおしゃべりをしたり、ちょっとゆっくりしていただけるような「集いの場」を目指しています。詳しくはまた改めてお知らせします。

みんなの声

「がんばれ！里芋君」

私の住んでいる伊豆地区では、帰島した多くの人が、少しずつ畑を拓いて野菜づくりを楽しんでいます。今年は天候に恵まれ、火山ガスもほとんど来ませんでしたので、野菜は順調に育っていました。

里芋(赤芽)もスクスクと育ち、人の背丈ほどに伸びているところも、あちこちに見られました。6年ぶりの収穫を誰もが楽しみにしていたのです。

そこへ、先週の台風11号が近くを通過したのです。風速40m近い風が半日近くも吹き続け、胡瓜やトマト、ナスなどに被害が出ましたが、一番大事な里芋もやられました。

特に生育の良かったもの程なぎ倒されています。そしてはもポロポロになったところもあちこちで見られます。台風が通過した朝、畑に見に行った人たちは、がっかりしました。私の里芋もやられていました。

さあ、どうしたもんだか……。倒れた芋を起こそうか、そのままがいいのか……。

年寄りたちは、起こしてはダメ、そのままにしておけば、やがて自然に起きてくるといいます。起こして土寄せをすれば、根を切ってしまうというのです。

さてさて、良く考えて、私のところは起こして土寄せをしました。理由は12月の収穫まで、生育のピークはこれからの9月中旬であり、孫芋、曾孫芋がつくのはその後です。今、多少根を切っても問題ないだろうと考えました。それと今年も台風の当たり年のようですから、この後、また来られると、倒れたままにしておくで強風で振られてもげってしまう心配があります。

どっちにしろ、多少の減収はしかたありません。今年は80%の出来で満足しましょう。

がんばれ！里芋君。

皆んな君に期待しているんだ！

(伊豆 大崎 興洋)

もう九月

避難解除されて半年過ぎましたが、落ち着いた？とよくたずねられます。何か、落ち着かないのが現実です。実際、雄山からは火山ガスは出ているし、確かに避難指示は解除されたけど、まだまだ、自宅には戻れない状態にいる方々。こんな状態いつまで続くのかと、皆誰もがそう思っていることと思います。

自宅に花をと思い、種をまいて芽が出て花が咲いたときの感動はいいものですが、ガスが来たら、枯れ果ててしまいがっかり、しかしガスに強い花がある事に気がつき、その花を増やしています。何かをしなれば、と畑に夏野菜を植えました。

近所の方々に作り方を教えてもらいながら、しかしやはり、ガスが来ると、作物もだめになってしまいます。おまけに今回は、台風がきたものだから、たまったもんじゃありませんでした。ガスとの共存、こんなに難しいものだとは思ってもいませんでした。

そうそう、先月畑にイタチが子供を5匹産んで、しいたけの木の上で遊んでいました。始めは、ねずみの子供？とと思っていましたが、なんと、胴が長いのです。遊んでいる姿はとても無邪気かわいらしいのですが、とんでもない、いたずらをしてくれました。まだ、台風がきていなかったので、きゅうりがなり始めていたときで、少しかじり捨ててありました。何本も……。

知人にこの話をしたら、「イタチは殺せばよかったのに」と言われました。「あの顔見ては殺すことはできないよ」とそんな話をしていました。

九月。やっと学校が始まり、今、ホッとしているところです。今日、学校に行ったら、明日、明後日休みなどと言っています。

これから、まだまだいろいろな問題が出てくると思いますが、それなりに乗り切らないと思っております。(伊豆 池田 弘子)

「忘れられない日」

避難解除されたら一番に帰り、自分のことは自分でしようと決心していた私が、2月2日、三宅島についた日、赤い帽子をかぶった上原事務局長さんをはじめとする支援センターの方たちが出迎えてくれました。あの涙が出るほど感激をした日のことを覚えています。

我が家に着いたとき、一時帰島のときは感じなかった不思議な感情が込み上げてきました。ネズミとイタチに汚された我が家でこれが現実と思い、立ち尽くしました。これからは自分のことは自分ですると、決めてきたので一生懸命片付け始めたのですが、そんな簡単なことではありませんでした。(帰島した時、皆が感じたことと思います)

2月8日の朝、支援センターから電話が入り、「今日は雨なので外での作業が出来ないので、手伝うことはありますか?」と聞かれ、「あるある、たくさんある」と答えました。ボランティアさんたちと作業内容を打ち合わせ、早速ネズミとイタチに荒らされ、汚された部屋が片付くと、次は何をしますか?次は?と次々とマジックのように部屋の中を綺麗にしてくれました。

帰島が早かったおかげで、私の家の周りを囲んでいた木や草は早く取り除かれ、道行く

人たちが「ボランティアってすごいなー」と見ては話していました。次々と片付いていく我が家で安心した暮らしが出来ようになったことに言い尽くせない感謝の思いがあります。

2月のあの寒かった日から、あの暑さの中で汗まみれになって作業をしていた方たちの姿が目には焼きついています。最後の見送りが出来なかったことへの心残りが、生涯ボランティアさんたちへの思いを募らせるのでしょうか?

2000年の6月26日から今日まで、どれほど多くの方たちに心配をかけ、励まされ、支えられたことか。この度の被災生活を通して私の心に残してくれた人たちへの思い。「人間とは困っている人を見たら見ず知らずの人のためにでも、多くのことを考え、手助けをする。人間とはなんて優しいのでしょうか。なんて素晴らしいのでしょうか」ということでした。

連日火山ガス警報が鳴り続け、ごみの山、枯れ木の山ですが、いつの日にか、緑豊かな三宅島にもどることを信じています。そして、「今、私に出来ることは何ですか?今やらなければならないことは何ですか?」と自らに問いかけています。お世話になった多くの方たちへの感謝の思いの日々の中で。

(阿古 鈴木 則子)

三宅島自然ふれあいセンターアカコッコ館9月のイベント情報

アカコッコ館では、夏休み期間中は毎日50人~60人の来館者があり、結構にぎわっていたそうです。秋になり、魚や鳥もまた夏とは違った顔を見せてくれそうですね。

イベントの問合せ、申し込みは直接アカコッコ館にお電話(04994-6-0410)ください。

穴原甲一郎絵画展 ~三宅島の風と光と水~

8/2日(火)~9月末日 9:00~16:30(月曜休館)場所:アカコッコ館(森の中のギャラリー)

三宅島の風景に魅せられ、少しずつ絵を描いてきました。2000年の噴火で、姿を変えてしまったところもあります。変わらずに繰り返される風景もあります。永遠のそして一瞬の光、色、形 そんな風景に憧れ、追い求めて……

フィッシュウォッチング 9/17日(土)時間:10:00~12:00集合場所:長太郎池駐車場

三宅島は9月、10月に魚が最も増えます。三宅島の海はこれからが面白いです。長太郎池で泳ぎながら、色とりどりの海水魚の仲間や海辺の生物たちを観察します!

定員10名(要予約)持ち物:マスク、フィン、スノーケル 対象:泳げる人(小学生以下は親同伴)

オーシャンセミナー 9/18日(日) 時間:10:00~12:00 集合場所:アカコッコ館

三宅島の海に潜れば、た~くさんの魚に出会えますね。三宅島の海の魅力について海辺の環境教育の第一人者海野義明さんからお話をさせていただきます。

講師:海野義明(アカコッコ館副館長)

伊豆岬渡り鳥ウォッチング

9/19日(月・祝) 時間:9:30~11:30 集合場所:伊豆岬灯台前駐車場

伊豆岬を訪れる秋の渡り鳥を観察します。南へ向かう途中のシギやチドリなどの渡り鳥が、長旅の羽を休めに立ち寄っていきます。